

まちの話題

子どもの健全な発育を 大塚製薬が支援

市は、大塚製薬株式会社と連携し、市民の健康増進に関する取り組みを推進しています。7月15日、同社福岡支店よりカロリーメイトと食や栄養に関する学習資材が寄贈されました。

近年の子どもの食をめぐっては、栄養素摂取の偏りや朝食の欠食、幼少期の肥満の増加、思春期のやせの増加など、問題は多様化、深刻化し、生涯にわたる健康への影響が懸念されています。



大塚製薬の笠間支店長は「直方の未来を支える生徒さんたちの栄養リテラシー向上のきっかけになることを願っている」と語りました。

将来に期待 ジャパンパラ陸上で優勝

7月19日、山元龍生さん(20)が「2022ジャパンパラ陸上競技大会」に出場したことを報告に表敬訪問しました。

同大会では障がいの種類や程

度により33のクラスに分かれて競います。山元さんは視覚障がいのあるT13クラスで出場。5月に行われた同大会では1500メートルと5000メートルに出場し、1500メートルでは4分46秒9で見事優勝しました。

最近では一般の試合にも参加し「障がいがあってもスポーツする人を増やしていきたい」という想いがあるそうです。

将来はパラリンピックを目指している山元さん。6月に開催された大会では、それぞれタイムを約10秒縮めており、次の大会では「金を目指します」と力強く語ってくれました。市長は「選手生命はまだまだ長い。直方を代表する選手になって頑張ってもらい」と激励し、今後の活躍が期待されます。



中学生が優しい行動 子猫を救出

直方中の生徒6名が迷い猫の救出に尽力したとして、直方市教育長が生徒たちの親切な行動を称えました。

6月8日、仲山花壇奈さん(16)

さん姉妹が下校中に困っているような猫の鳴き声に気付く、寒竹有沙さん、松田愛校さん、塚本琉月さん、藤村友輝さんの6人で捜索したところ、側溝に迷い込んだ子猫を発見しました。「かわいそう。きつと困っている」と思い何とか助けたいと近隣のお宅へ協力を求めたところ、市職員も駆けつけ救出を開始。職員からの提案で、生徒たちは動画で猫の鳴き声を流したり、エサを見せておびきよせたりして、みごと救出に成功しました。

教育長からの「皆さんの優しい行動がとても嬉しい。これからも優しい気持ちを大切にし、いろいろなことに頑張ってもらい」との願いに、みんな堂々と「はい」と答えました。



警察署と災害発生時の 施設使用協定を締結

7月22日、市と直方署は、大規模災害で同署が被災し警察機能に支障が生じた場合の施設利用に関する協定を締結しました。市庁舎の一部を臨時的に使用することで、警察機能および住民の安

全安心を確保することを目的としています。

直方警察署の加藤雅秋署長は会議室等の庁舎の使用に加え、署の非常用電力の確保ができなくなった場合にもメリットがあるとし、「人の安全を守るのは警察も行政も同じ。協力し合って住民の安全を守っていききたい」と話し、市長は「警察との密な連携は不可欠。万の際の予防措置として協定は有効だ」と語りました。



直方市技能実習生等 外国人支援協議会を設立

市では、直方市域における技能実習生等の外国人の支援を行うため、外国人技能実習生の受け入れ企業等と、市および直方商工会議所を構成メンバーに、直方市技能実習生等外国人支援協議会を設立しました。

7月19日に開催した設立総会では、今後の協議会の事業計画を審議したほか、10月からスタートする「日本語教室直方」についての説明や、福岡県による関連施策の紹介を行いました。また、福岡出入国在留管理局と福岡県行政



市のホームページでは、
この他の話題も公開しています。

書士会にご協力いただき、2つの
基調講演を実施しました。

本協議会では、今後、技能実習
生等の外国人の
皆さんが働きや
すい直方市を目
指し、引き続き
様々な活動を行
って行く予定です。



筑豊高校陸上部と ビジネス部が 全国大会出場

7月22日、筑豊高校の陸上部と
ビジネス部が全国大会の出場報
告のため表敬訪問しました。

陸上部の松本夢叶さん(3年
生)は昨年に続き2年連続でのイ
ンターハイ出場で、女子円盤投げ
に出場し「決勝に行つて上位に入
るのが目標」。女子砲丸投げに出
場する工藤実幸乃さん(1年生)は
「大きな舞台で自分の投げをし
て、1センチでも記録を伸ばした
い」と目標を語りました。

ビジネス部では小川楓花さん
が全国高等学校ワープ口競技大
会に速度競技部門で出場。これは
入力速度を競つもので、10分間
に何文字打てるかを競います。
「今年は1500文字以上ミスな

しで打つ正確賞を取りたい」と話
しました。また、全国パソコン技
能競技大会には日本語ワープ口
競技部門に出場します。こちらは
4名の団体戦で、地図を含むビジ
ネス文書作成の正確さと速さを
競つものです。出
場する中野幸奈
さん(3年生)は
「昨年は団体3位
なので、今年は
もっと上を目指
したい」と意気込
みました。



商店街に 子どもの笑顔と賑わいを

子どもたちの笑顔と市民のパ
ワーをつなぐ場をつくり、まちの
活力へとつながる推進力をはぐ
くむ環境を整備するため、市と
(株)まちづくり直方が「子ども
×商店街」賑わい創出事業」の説
明会を7月22日に古町商店街の
旧すずらんで開催しました。

説明会では市民約30人が参加
し、旧すずらんの店舗を活用した
複合施設の概要や、まちづくりの
担い手となる人材の発掘・育成を
行う「エンボるスクール」の説明
が行われました。複合施設には、
子育て支援センターや飲食・物販
店舗などが入居する予定です。

参加した市民からは「説明会の
時期は適切だったのか」「事業予
算はいくらなのか」などの質問が
飛び交いました。今後は「エンボ
るスクール」を
実施し、来年4
月ごろの複合施
設のオープン後
は「賑わい」づく
りのイベントな
どを実施してい
く予定です。



SDGsの推進へ 第一生命と包括連携

7月22日、直方市と第一生命保
険株式会社との包括連携に関す
る協定締結式を市庁舎で行いま
した。

この包括連携では、同社営業職
員のマンパワーを活かした空き
家の可能性がある家屋の情報提
供を空き家対策計画へつなげる
とともに、デジタルデバイス(情
報格差)対策に関するアンケート
を行い市民ニーズの把握につな
げるなど、SDGsの達成に向
けた地域課題の解決に向けて取
り組みを行っていきます。

市長は「行政だけで地域課題の
解決は難しい。第一生命のマンパ
ワーとネットワークの軽さで協力
いただけるとありがたい」と話

し、同社の北九州
総合支社の今村
「男支配人支社長
は、営業社員の方
と全国のネット
ワークを活かし
て、直方市の
SDGsの推進
に少しでも貢献で
ければ光栄です」
と語りました。



小野牟田・野添線開通

7月27日、平成28年度から感田
に整備してきた都市計画道路小
野牟田・野添線が開通しました。

本路線は感田の国道200号
線「行常交差点」から国道200
号バイパスを結び、周辺は大型商
業施設、病院、学校が隣接してい
ます。通勤通学の自転車通行も
あることから、歩道、自転車道を
整備しています。開通式で市長は
「この道路は通学路など生活の中
でも重要であり、歩道を設置した
ことで安全・安心して通ることが
できる。また、直
方市と北九州市
を結ぶ道路でア
クセスも良く、地
域や市の活性化
につながる」と挨拶
しました。

